

甲斐市立竜王北中学校 自己評価書（前期・後期）

平成28年7月11日（月）作成

校長 清水 千春

記述者 職名（教頭） 奥石 信

学校教育目標 「豊かな心を持ち 自ら学び たくましく生きる生徒の育成」

学校経営方針

- （１）豊かな人間性の育成
- （２）確かな学力を育む指導と評価
- （３）体力向上と健康安全意識の向上
- （４）愛情と信頼に基づく生徒指導の充実
- （５）安全・安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくり

作成・分析にあたって

- ・本年度から、市が行う学校評価事業は年１回（12月実施）となったが、年度途中で教育活動を振り返り改善していく観点から、本校独自の取組として、この時期に教職員アンケートを実施し、自己評価を行うこととした。
- ・分析にあたっては、以下の考え方を基本としてまとめていくこととした。
（教職員アンケートについて）
- ・回答群A（そう思う）とB（ややそう思う）をまとめて「肯定的な回答」とし、回答率が90%を上回るものは「達成ができています」として評価する。
- ・「肯定的な回答」が80%を下回る項目は、本校の課題とする。
- ・前年度同期と比べて5ポイント以上差がある項目は、本年度の特徴として捉えるものとする。
- ・本校の独自の集計方法として、A：4点、B：3点、C：2点、D：1点として回答を数値化し、各項目の平均値を算出した。
（評価書の構成について）
- ・全体を3部構成とし、1 全体の評価結果、2 項目ごとの評価結果、3 まとめ とした。

1 全体の評価結果

（教職員アンケート）から

- ・肯定的な回答（Aそう思う Bややそう思う の合計）がほぼ全項目（45項目中43項目）で90%を超えている。
- ・肯定的な回答が80%を下回る項目は、
 - ・V①「地域の人材や地域の教育力を生かす指導」（75.0%）
- ・肯定的な回答が、前年度に比べて5ポイント以上高くなった項目は、
 - Ⅰ⑦「福利厚生や健康管理についての配慮」＋11.8ポイント（H28 95.8% H27 84.0%）
 - Ⅱ①「校舎内外の施設設備の定期的な点検」＋7.7ポイント（H28 100.0% H27 92.3%）
 - Ⅱ⑥「教職員との相互理解と信頼関係」＋7.7ポイント（H28 100.0% H27 92.3%）
 - Ⅲ④「個に配慮した授業」＋21.7ポイント（H28 100.0% H27 78.3%）
 - Ⅲ⑥「教材教具や備品等を活用した授業」＋12.2ポイント（H28 89.5% H27 77.3%）
 - Ⅳ④「問題行動（いじめ、不登校等）への早期発見・早期対応」＋8.3ポイント（H28 100.0% H27 91.7%）
 - Ⅴ①「地域人材や施設を活用した教育活動」＋16.7ポイント（H28 75.0% H27 58.3%）
 - Ⅴ②「学校に対する要望等を聞く機会の設定」＋20.8ポイント（H28 95.8% H27 75.0%）

- 肯定的な回答が、前年度に比べて5ポイント以上低くなった項目は、
 - Ⅲ⑤「評価規準と評価方法を明確にした授業」-5.3ポイント（H28 94.7% H27 100.0%）
 - Ⅲ⑦「質問や発言が出てくる授業」-5.3ポイント（H28 94.7% H27 100.0%）
- 平均値が低かった（3.3以下）項目は、
 - ・Ⅱ②「危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルの理解」（平均値3.2）
 - ・Ⅲ④「個に配慮した授業」（平均値3.3）
 - ・Ⅲ⑤「評価規準と評価方法を明確にした授業」（平均値3.3）
 - ・Ⅴ①「地域人材や施設を活用した教育活動」（平均値2.9）

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況

- ・全7項目のうち6項目で肯定的な回答が100%である。
- ・全ての項目で、前年度同期に比べ、平均値が高くなっている。
- ・「職場の福利厚生・健康管理への配慮」については、肯定的な回答が前年度同期と比べて11.8ポイント高い。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
7	あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。 (平均値:今回 3.7、H27 前期 3.3)	本校	70.8	25.0	4.2	0.0	95.8
		H27 前期	48.0	36.0	16.0	0.0	84.0

改善策

- ・管理職が、一人一人の勤務状況や抱えている課題・悩み等について把握し、適切な助言を行う。面談等を行い、ストレス等が過度に蓄積しないように配慮する。
- ・管理職が、特定の教職員に負担がかかっているか、学校が組織として機能的に運営されているかについてチェックし、校務分掌の見直しを図っていく。
- ・管理職が、教務主任や学年主任との連携を密にし、体調がすぐれない教職員がいた場合は授業変更等を迅速に行う。
- ・休暇を取得しやすい体制づくりや職場の雰囲気を醸成する。月に一度、定時退勤日を設ける。

II 学校運営について

達成状況

- ・全項目で肯定的な回答が 90%を超えた水準にある。
- ・「危機管理関係のマニュアルの理解」については、平均値が 3. 2 であり、昨年度同期と比べ大幅に数値が低くなっている。特に、A と回答した割合が著しく減少している。人事異動により、新しく本校の職員になった人が多いことが要因の 1 つであると考えられる。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
2	あなたは、危機管理(防犯、防災、事件、事故等)マニュアルを理解している。 (平均値:今回 3.2、H27 前期 3.6)	本校	16.7	83.3	0.0	0.0	100.0
		H27 前期	61.5	34.6	3.8	0.0	96.2

- ・「教職員の相互理解と信頼関係」については、前年度同期と比べ 7.7 ポイント高くなっている。先生方が、日頃から、お互いの立場を尊重し、コミュニケーションを図りながら教育活動にあたっていることの表れであると考えられる。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
6	あなたは、他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて、教育活動にあたっている。 (平均値:今回 3.9、H27 前期 3.5)	本校	91.7	8.3	0.0	0.0	100.0
		H27 前期	53.8	38.5	7.7	0.0	92.3

改善策

- ・危機管理関係のマニュアルについては、職員会議や防災訓練等の機会を利用して、内容の周知を図っていく。各マニュアルのダイジェスト版を作成することについて調査及び研究を行い、職員が手軽にマニュアルを手にとることができるような方法を検討していく。
- ・教職員の相互理解と信頼関係については、教育活動を成り立たせる土台となるものである。お互いの立場や働くことに関する環境の違い等を理解しながら、補完し合って業務にあたることのできるような温かい職場づくりを進めていく。

Ⅲ 学習指導について

達成状況

- ・一項目を除いた全ての項目で肯定的な回答が 90%を超えた水準にある。
- ・「個に配慮した授業」については、前年度同期に比べ 21.7ポイント高くなっている。先生方が一人一人の特性や実態を念頭に置きながら、日々の授業実践を行っている様子がうかがえる。その一方で、学習指導の他の項目に比べると A の割合や平均値が低くなっている。個に応じた授業を実践しようとしてはいるものの、教師自身が納得のいく段階まではできていないと感じていることの表れであると考えられる。生徒一人ひとりに学びのある授業を模索している教師の姿がうかがえる。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、個に配慮した授業を行っている。 (平均値:今回 3.3 H27 前期 3.2)	本校	26.3	73.7	0.0	0.0	100.0
		H27 前期	39.1	39.1	21.7	0.0	78.3

- ・「評価規準と評価方法を明確にした授業」については、前年度同期に比べ 5.3ポイント下回り、学習指導の他の項目に比べると A の割合や平均値も低い。普段の授業の中での生徒の学習の見取りをいかにに行い、学期末の評価、評定に結び付けていくかについて、課題意識をもっている先生方が多いことの表れであると考えられる。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
5	あなたは、評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている。 (平均値:今回 3.3 H27 前期 3.4)	本校	31.6	63.2	5.3	0.0	94.7
		H27 前期	43.5	56.5	0.0	0.0	100.0

- ・「教材教具等を活用した授業」については、90%を下回った。その一方で、前年度同期と比べると 12.3ポイント高くなり、A と回答した割合が大幅に増加している。先生方が自分自身の本年度の教科指導の目標（自己観察書記載）を念頭に置いて授業実践、授業改善をしようとする意識が高まってきていることの表れであると考えられる。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
6	あなたは、教材教具や備品等を活用した授業を行っている。 (平均値:今回 3.4 H27 前期 3.0)	本校	47.4	42.1	10.5	0.0	89.5
		H27 前期	27.3	50.0	22.7	0.0	77.3

改善策

- ・生徒に確かな学力を身に付けさせることは学校教育の大きな目的の一つである。そのことを職員全員が意識し、教科の違いを越えて、授業力を高め合う雰囲気づくりを進めていく。
- ・職員会議、校内研究会を活用し、発達課題に適した支援方法やユニバーサルデザインによる授業について学習する場や日常的に教職員がお互いの授業を見合う機会を作っていく。
- ・管理職が先生方の授業を参観する機会を増やし、気づいたことについて助言をしていく。
- ・学力差の大きい教科に対しては、T T や支援員を有効活用し、きめ細かな指導を行っていく。

Ⅳ 生徒指導について

達成状況

- ・全項目で肯定的な回答が90%を超えている。一項目を除いては100%の肯定率である。
- ・「問題行動、いじめ、不登校等の早期発見・早期対応」については、前年度同期に比べ8.3ポイント高くなっている。先生方がいじめや不登校等の問題行動への対応を生徒指導、学級指導の重点としてとらえ、日頃から生徒の変化について見取ろうとしている様子がうかがえる。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができている。 (平均値:今回 3.6、H27 前期 3.4)	本校	59.1	40.9	0.0	0.0	100.0
		H27 前期	45.8	45.8	8.3	0.0	91.7

- ・今年度新しく加えた項目である「道徳の時間を中心とした生徒の豊かな心の育成」については、100%の肯定率であった。県の道徳教育推進事業の指定を受け、校内研究の主題にも道徳が掲げられたことで、先生方の道徳教育に関する意識が高まっている様子がうかがえる。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
7	あなたは、道徳の時間を中心とした道徳教育を通じて、生徒の豊かな心の育成に努めている。 (平均値:3.6)	本校	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0
		H27 前期	-	-	-	-	-

改善策

- ・いじめを含めた問題行動の未然防止、早期発見・早期対応のために、生徒指導部会、生徒理解部会等で情報共有、指導の方向性の検討を行い、担任だけでなく教職員の役割分担のもと、適切な対応ができるようにしていく。
- ・不登校については、生徒理解部会を活用し、休み始めた生徒についてケース会議を行い、本格的な不登校になる前の対応にも重点を置いて取り組んでいく。
- ・再登校への取組については、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとも連携して対応していく。中学校卒業後を念頭に置き、長期的な視点ももって取組を行っていく。
- ・いじめ等の未然防止の観点からも道徳教育の充実是不可欠である。生徒が思いやりをもち、互いを尊重できるような心と態度を育成していけるよう学校を挙げて取り組んでいく。
- ・道徳の時間の授業については、校内研究や外部の研修会へ積極的に参加し、授業の質の向上を図っていく。

Ⅴ 地域との連携について

達成状況

- ・一項目を除いた全ての項目で肯定的な回答が95%を超えている。また、全ての項目で前年度同期に比べて平均値が上昇している。
- ・「学校に対する要望等を聞く機会の設定」については、前年度同期に比べ、20.8ポイント高くなっている。
- ・「地域人材や施設を活用した教育活動」は、肯定率、平均値とも全アンケート項目の中で最も低い数値となっているが、前年度同期と比べると、16.7ポイント上昇している。
- ・学校行事、PTA活動等の諸活動を地域・保護者へ参加を促したり、各種通信、HPを通じて学校の取組の様子を積極的に発信していることが奏功していると考えられる。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。 (平均値:今回 2.9、H27 前期 2.5)	本校	12.5	62.5	25.0	0.0	75.0
		H27 前期	4.2	54.2	25.0	16.7	58.3

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
1	あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。(平均値:今回 3.4、H27 前期 2.8)	本校	45.8	50.0	4.2	0.0	95.8
		H27 前期	8.3	66.7	25.0	0.0	75.0

改善策	・さらに、本校における教育活動に地域人材や外部人材が活用できる場面がないかを検討、活用していくとともに、地域人材を活用した授業、学校行事等の計画を進めていく。すでに実施している活動については、教職員間で共通理解を図り、担当教職員だけでなく他の職員も関わりがもてるようにしていく。 ・学校委員会、学校評価委員会を活用し、保護者や地域の学校に対する願いや要望を聞く機会の充実を図る。地域にある学校として、地域の方と協働しながら、子ども達を育成していく意識を教職員一人一人が高めていくよう努めていきたい。
VI 学校の特色に関して（職員用アンケートから）	
達成状況	・全項目で肯定的な回答が 95%を超えている。また、全ての項目で平均値が前年度同期に比べ上昇している。 ・先生方が、学校行事を始めとした諸活動に目的意識をもって取り組んでいる様子がうかがえる。
改善策	・本校の特色として、教職員全体で取組をさらに推進していけるように、意識を高めていく。また、取組の質を高められるように P D C A サイクルを活用していく。 ・「発表活動に主体的に取り組むような指導」については、日常的な授業の発言や発表、集会活動や学園祭等における自己表現や発表の機会をとらえ、適切に指導していく。 ・「学習強化週間を活用した個に応じた指導」については、地道な取組ではあるが、学習の理解に困難を抱えている生徒には必要な取組である。こうした取組が種となり、生徒自身が学習への意欲を花開かせ、結果となって実を結ぶことを教職員一同で確認し、粘り強く取り組んでいきたい。
3 まとめ	
＜成 果＞ ・教職員が全項目にわたり、高い意識を持って教育活動に努めている様子が確認できた。 ＜課 題＞ ・多くの項目で成果が見られる一方で、改善を図る必要のある項目もある。これらについては、教職員全員で知恵を出し合って改善策を考え、実施にあたっては学校全体で合意形成を行い、チームとして取り組んでいく。また、即時に結果が出なくても継続して粘り強く取り組みを進めていく。 ・1 学期の教育活動における多くの成果と課題を全教職員で共有し、2 学期以降の学校生活全体の向上につながるように、P D C A C A サイクルを有効的に生かしていきたい。	